

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	沖縄県
-------	-----

学校の概要 (平成 15 年 4 月現在)

学校名	沖縄県 名護市立 大北小学校								
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	1	19	27
児童数	90	99	114	106	110	116	1	635	

実践研究の概要

1. 研究主題 (テーマ)

児童一人一人が互いに学び合い、確かな学力を身につけるための学習指導の工夫
～ 算数科における問題解決的な学習と少人数指導の実践を通して ～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科〔平成 15 年度の実施に関して〕

問題解決的な学習の研究 (全学年算数科) = 学校として継続してその研究を実践しているため
少人数指導の研究 (3 年生以上の算数科) = 14 年度の研究成果と児童の実態から、実施学年
の枠を広げ、研究に取組むため。

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年 度	<p>テーマ 児童一人一人が互いに学び合い、確かな学力を身につけるための学習指導の工夫 ～ 算数科における問題解決的な学習と少人数指導の実践を通して ～</p> <p>仮説 児童一人一人が、問題解決的な学習の仕方を身につけ、互いに練り合い学び合うことで、主体的に学習する子「自ら学び自ら考える子」が育つであろう。 少人数指導等、個に応じた指導の工夫・改善を図ることで、すべての子どもに基礎・基本を確実に身につけさせるとともに、発展的な学習への展開を図ることで、「確かな学力」の向上が図れるであろう。</p> <p>研究内容・方法 【算数科における問題解決的な学習の研究】 ・「問題解決的な学習」を取り入れた授業の改善・工夫。 ・コンピューターを活用した授業実践の研究 【算数科における少人数指導の実践】 ・習熟度別編成による少人数指導の実践 (4 学年・5 学年) 【基礎基本の定着を図るための教材 = 大北フロンティアの開発】 ・各学年各単元ごとのレディネス (前提) テスト集作成 【基礎学力検査の分析 (3・4・5・6 年)】</p>
	<p>テーマ 児童一人一人が互いに学び合い、確かな学力を身につけるための学習指導の工夫 ～ 算数科における問題解決的な学習と少人数指導の実践を通して ～</p> <p>仮説 児童一人一人が、問題解決的な学習の仕方を身につけ、互いに練り合い学び合うことで、主体的に学習する子「自ら学び自ら考える子」が育つであろう。 少人数指導等、個に応じた指導の工夫・改善を図ることで、すべての子どもに基礎・基本を確実に身につけさせるとともに、発展的な学習への展開を図ることで「確かな学力」の向上が図れるであろう。</p> <p>研究内容・方法 【算数科における問題解決的な学習の研究の継続】 ・「問題解決的な学習」を取り入れた授業の改善・工夫。 ・コンピューターを活用した授業実践の研究。 【算数科における少人数指導の実践の継続】 ・習熟度別編成による少人数指導の実践 (3・4・5・6 学年) 【基礎基本の定着を図るための教材 = 大北フロンティアの開発】</p>

- ・各学年各単元ごとのレディネス（前提）テストの活用
- ・各学年各単元ごとの治療的問題集作成
- ・各学年各単元ごとの発展的問題集作成の検討
- 【基礎学力検査の実施と分析・比較（3・4・5・6学年）】
- 【ホームページの作成とフロンティア事業実践の情報発信】

テーマ 児童一人一人が互いに学び合い、確かな学力を身につけるための学習指導の工夫
 ～ 算数科における問題解決的な学習と少人数指導の実践を通して ～

仮説

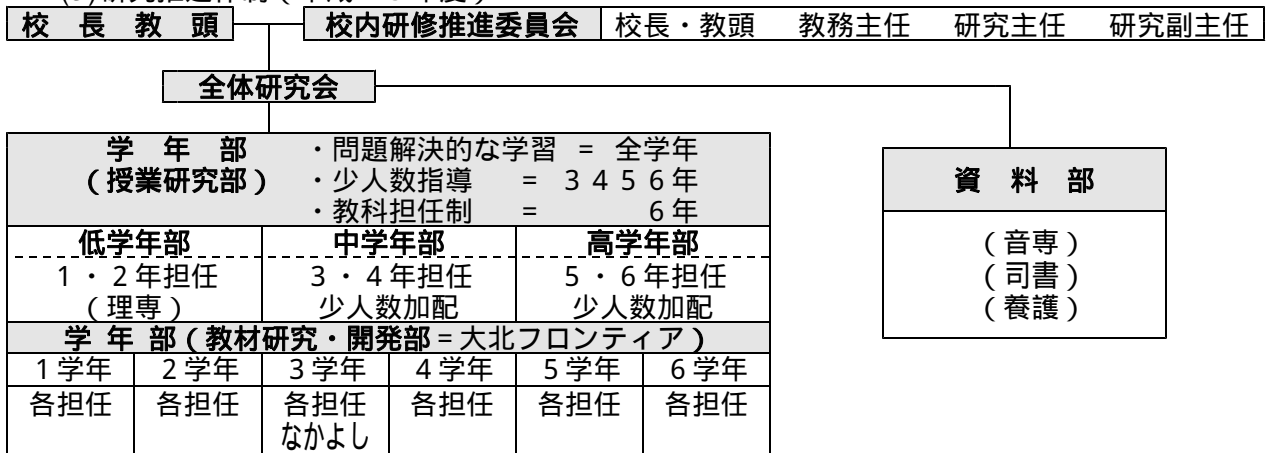
児童一人一人が、問題解決的な学習の仕方を身につけ、互いに練り合い学び合うことで、主体的に学習する子「自ら学び自ら考える子」が育つであろう。
 少人数指導等、個に応じた指導の工夫・改善を図ることで、すべての子どもに基礎・基本を確実に身につけさせるとともに、発展的な学習への展開を図ることで「確かな学力」の向上が図れるであろう。

研究内容・方法

- 【算数科における問題解決的な学習の研究の継続】
- ・「問題解決的な学習」を取り入れた授業の改善・工夫。
- ・コンピューターを活用した授業実践の研究。
- 【算数科における少人数指導の実践の継続】
- ・習熟度別編成による少人数指導の実践（3・4・5・6学年）
- 【基礎基本の定着を図るための教材＝大北フロンティアの開発】
- ・各学年各単元ごとのレディネス（前提）テスト集の活用
- ・各学年各単元ごとの治療的問題集の活用
- ・各学年各単元ごとの発展的問題集の作成
- ・各学年家庭学習ノート（ドリル）作成の検討
- 【基礎学力検査の実施と分析・比較（3・4・5・6学年）】
- 【ホームページによるフロンティア事業実践の情報発信】

平成
16
年度

(3) 研究推進体制（平成15年度）



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果（少人数指導の授業実践から）

算数科における単元別レディネステスト・単元末テストの偏差値での比較

6学年少人数指導 19名 単元名【分数のかけ算】

児童	レディネス	単元テスト	児童	レディネス	単元テスト	児童	レディネス	単元テスト	児童	レディネス	単元テスト
A	30.7	53.0	K	34.9	40.5	F	39.2	48.0	P	30.6	53.1
B	36.5	50.1	L	34.9	28.6	G	37.0	48.0	Q	30.6	35.3
C	33.6	50.7	■	■	■	H	34.9	54.9	R	27.9	35.3
D	30.7	54.7	■	■	■	I	34.9	37.7	S	25.2	40.8
E	27.9	46.0	O	33.3	37.2	J	34.9	36.5			

平成14年度基礎学力検査と平成15年度達成度テストの比較

	平成14年度 基礎学力検査		平成15年度達成度テスト	
	平均	本校数値目標	平均	本校数値目標
国語	38.6	40.2	37.7	39.0
算数	32.2	36.6	35.2	33.0
総合	35.4	38.4	36.5	36.0

研究の成果 (平成14年度基礎学力検査と平成15年度の比較から)

	3学年	4学年	5学年	6学年
平成14年度	40.4	35.1	28.3	32.3
平成15年度	41.0	39.0	35.0	29.4

実践の結果と考察

単元別レディネステストと単元末テスト【分数のかけ算】の偏差値での比較から、少人数指導クラス19名のうち17名(89%)の児童に一定の指導の効果がみられた。

2名の児童に対しては指導の効果がみられなかったため、指導方法の改善の一つとして、コンピューターを活用(教育ソフト・ランドセル)し、習熟の定着を図るようにしていきたい。

昨年度実施した基礎学力検査と同じ問題を使って今年度も実施し、(11月25日)3・4・5学年においては昨年度学年平均を上まわり、4・5年においては県平均をも上まった。6学年については、昨年度の基礎学力検査と今年度の達成度テストの比較から、算数においては3ポイント上まった。また、本校の基礎学力向上対策における数値目標もクリアし、その効果がでてきているように思われる。

2. 今後の課題

次年度は、学年間、学級間での進捗把握・調整や加配教員との打ち合わせの時間の確保に努める。

S-P表と偏差値の活用によって、より確実な児童の変容の把握に努め、指導方法の工夫・改善の充実を図り、それを学年・学級で共通理解していく必要がある。

個に応じた学習形態には、習熟度別等さまざまな形態が考えられるが、今後どの学年のどの単元ではどのような学習形態がよりよいのか、また習熟度別少人数編成はどのような時に有効なのか、工夫していく必要がある。

全体として、学力向上対策における本校の数値目標を意識しての取組みが不十分であったように思われる。次年度は、標準学力検査・基礎学力検査(平成14年度版)・達成度テストに向けて、各学年がそれぞれの数値目標を設定し、取組みの強化・充実を図っていきたい。(フロンティアタイムの有効活用)

学力等把握のための学校としての取組

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・算数科各学年各単元ごとのレディネス(前提)テスト実施
S-P表作成による児童個々の実態把握と問題分析 ・基礎学力検査(3~6学年)の実施と分析(11月下旬) ・算数科各学年ごとの教材開発・作成 ・毎週水曜日 特別枠『フロンティアタイム』を設定した治療指導・発展学習 |
|--|

・フロンティアスクールとしての研究成果の普及

〔平成14年度〕

- ・平成14年8月16日 国頭教育事務所 『学習方法の改善』事例発表
対象 = 国頭地区小学校教務主任，学年主任，教職15年・20年経験者
- ・開発教材〔大北フロンティア＝レディネステスト集〕の配布
- ・HP作成については未実施（次年度以降作成予定）

〔平成15年度〕

- ・開発教材〔大北フロンティア＝治療的問題集〕の製本・配布
- ・校内研修録（含：フロンティア事業実践報告）の製本
- ・HPの作成中

〔平成16年度〕

- ・研究発表会の開催については未定
- ・開発教材〔大北フロンティア＝発展的問題集〕の製本・配布
- ・校内研修録（含：フロンティア事業実践報告）の製本
- ・HPの作成・発信

~~~~~  
次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】  15年度の継続校  14年度の継続校
- 【学校規模】  6学級以下  7～12学級  19～24学級  25学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  一部教科担任制  その他
- 【研究教科】  算数  社会  算数  理科  生活  音楽  図画工作  家庭  体育  その他
- 【指導法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無